



間伐材マーク

月刊

あじenda 10月

2008年



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信

月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター2F 活動支援室内

TEL:075-647-3535

FAX:075-647-3536

E-mail:ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

開室時間:10時~18時45分(木・日休業)

アクセス:京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

チームの参加事業者を募集中!!

環境保全型の森づくり活動を開始

京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクト 水源の森づくりチーム 活動報告

京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクトのチームの一つ、「水源の森づくりチーム」が、今年8月から環境保全型の森づくり活動を開始しました。

■ 水源の森づくりチームの活動

水源の森づくりチームでは、京都市産業観光局農林振興室林業振興課の協力の下、京都市の市有林「合併記念の森」(右京区京北)で、環境保全型の森づくり活動を行い、チーム員(事業者)の森林保全活動の技術の向上を目指すこととなりました。

放置人工林を間伐して林内に光を入れて下草を生やし、生態系の保たれた森に戻していきたいと考えています。間伐した材は有効活用し、来年2月頃には市内の学校等で、森林保全に関する環境学習を行う予定です。

■ 第1回目の森林保全活動を実施 2008年8月27日

「合併記念の森」は、20年ほど前にゴルフ場にする計画がありましたが、事業主体である民間会社の経営難により、結局開発されずに残された森林です。大半はアカマツと、スギ・ヒノキの人工林です。京都府レッドデータブックに記載されている希少な昆虫や植物などが棲息する貴重な場所です。この森の中に、雪害により幹が途中で折れるなどした放置人工林があり、今回はそこで間伐作業を行いました。

- ・ 参加者:12名 林業振興課から2名同席、スタッフ3名、事業者担当者7名、事業者名は以下のとおり。
日本電気化学(株)、月桂冠(株)、(株)エスケエレクトロニクス、三幸総研(株)、(株)京都テクニカ、(有)村田堂
- ・ 講師:勝山俊治氏(京北森林組合 代表理事常務)
北山就乙氏(京北森林組合)

● 京北の林業について

午前中は、京北森林組合の勝山さんから京北の林業に関するお話をいただきました。これまでの歴史や深刻な経営状況について理解を深めました。

(勝山さんの話「地元産材活用で林業振興、環境保全を」)

街の人が京北の森林に興味を持ってくれるのは非常に嬉しい。旧京北町では面積2万1千haのうち、2万haが森林。人工林率は47%。桂川とつながっており、かつては筏で木材を京都の街中に運んでいた。北山杉の名で売られている京北のスギは、非常に良質で、かつては高い値段で取引されていた。しかし国産材の需要の低下に伴い、材木が売れなくなり、放置人工林が増えてしまった。そのため、動物による被害が出るようになった。もともと動物はあまりスギやヒノキの苗木を食べなかったが、他のえさがいないために、食べるようになった。木材が売れないことや動物による被害のため、林業家はやる気をなくしている。街の人とも意見交換しながら、林業再生策の方向性を検討していきたい。



【写真】第1回目参加者

● いよいよ間伐実習

午後からは、いよいよ初めての間伐実習です。京北森林組合の北山さんに、分かりやすく間伐指導をしていただきました。参加者は北山さんの指導のもと、ノコギリで、各自1本ずつ、雪害でヒョロヒョロになったスギを間伐しました。なかなか体力のいる作業でした。



【写真】合併記念の森の
放置人工林(活動場所)



【写真】間伐実習の様子



【写真】間伐実習後の林内

この日は計20本程度のスギを切りました。間伐した空間に光が入り、そこだけポツカリと明るくなりました。いずれ下草が生い茂り、生きものも戻ってくるでしょう。僅かな空間ですが、生態系復元を目指した「水源の森づくりチーム」による森林保全活動の第一歩となりました。



Agenda Forum
10月のミーティングと
主催行事の予定

10月4日(土)・5日(日)

OIKE Festa 2008において
家庭の省エネ相談所開設

10月8日(水)

幹事会

* 未定

交通WG運営会議

京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクト 水源の森づくりチーム 活動報告 なぜ、今「水源の森づくり」を行うのか

■ 生命の源である森林

森林の機能には、水源涵養、災害防止、地球温暖化防止などいろいろありますが、一番重要なのは水を供給してくれるということでしょう。都市に住む私たちが水道の蛇口をひねったときに水が出るのは、周辺に残された森林のおかげです。森から湧き出す滋養豊かな水は、あらゆる生命の源であり、全産業を支えています。太陽光や風力など、石油に替わるエネルギー資源はありますが、未だに水に替わるものはありません。

■ 危機に瀕する森林

日本の森林率(森林が国土に占める割合)は67%で、世界第三位を誇ります。京都市における森林率も73.7%ですが、実は自然の森はあまり残っていません。これは、1950年代から60年代にかけて行われた国の拡大造林政策により、自然の森が伐採され、木材を取るためのスギやヒノキの人工林に変えられたためです。その結果、日本の人工林の割合は全森林面積の42%(京都府内では37%)にのぼります。家の柱になるスギやヒノキは私たちの生活になくてはならないものですが、地域によ



【写真】放置人工林内。
川の水が濁れてしまっている。

っては地形や標高を無視し、あまりにもたくさん植え過ぎてしまいました。しかも、そうして植えられたスギやヒノキは安価な輸入木材に押されて売れなくなり、手入れされずに放置されるようになりました。

このような手入れされていない「放置人工林」の増加により、様々な問題が起こるようになりました。放置人工林は、保水力・土壌を支える力が自然林に比べて劣るため、川の流量が減少し、また台風が来ると土砂崩れを起こし、大雨が降ると洪水を起こすようになってしまいました(複数の調査によると、放置・手入れ不足の人工林は雨水の土壌浸透能※が自然林の1/2.5、貯水能力は表層土壌で10%低下する)。また、スギやヒノキ一辺倒の人工林には野生動物のエサになる木の実がならず、放置人工林の中には光が入らないため下草も生えず、様々な生きものが生きていくことはできません。生息地を失った動物たちは、エサを求めて里地の畑や、残された自然林などに集中するようになりました。その結果、農林業被害を起こすようになり地元の方は大変困られ、動物たちは害獣として殺されるようになりました。

※浸透能:その土壌に水がしみ込む速さを相対的に数値で表したものの。この値が高い土壌は降った雨を速やかにしみ込ませる、つまり保水力が大きい。



【写真】土砂崩れを起こした放置人工林。
京都府福知山市(2004年10月)

■ 森には様々な生きものが必要

動物は被害を起こすことがある反面、森林生態系を構成する重要な一員でもあります。豊かな森は、植物だけではなく、動物、バクテリア、細菌など多くの生きものがいて初めて成り立ちます。例えば、植物の中には、動物に食べられてフンとして排泄されなければ発芽しないものもあります。花粉を媒介する昆虫も必要です。

■ 自然に近い森の復元と間伐促進で、環境保全を

ある吉野の代々続く林業家の方は、「かつて山の上の自然の森からは栄養豊富な水が湧き出し、その水によって、山の下の方にある人工林のスギも生長した。だから山の下でっぺんや尾根沿いの自然林は触らず、手付かずで残した」と話しています。

水源涵養、災害防止、獣害軽減、人と動物との棲み分けのために、山の上方や尾根沿い、またスギ、ヒノキの生育に適さない場所は、なるべく元の自然に近い森に戻していくこと。一方、里地に近い人間が利用する人工林はしっかりと手入れを行い、材として活用していくことが必要です。

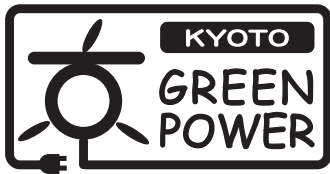


【写真】300年間人の手が入っていない若杉天然林(岡山、鳥取、兵庫の県境)。中は明るく、多種多様な植物が生え、こんこんと水が湧き出している。

参加事業者を募集中!!

今後も継続して森林保全活動や学校での森の大切さを伝える環境学習を行っていく予定です。関心のある方は、お気軽にフォーラム事務所までご連絡ください。(連絡先:1ページ 右肩面参照)

大好評！ 京グリーン電力証書－2008 年度 京グリーン電力証書販売状況－



2007 年 10 月から試行的に実施してきた「京グリーン電力制度」では、2008 年度既に 17,800 kWh 相当量を販売しました（2008 年 9 月 16 日現在）。マスコミ掲載や口コミで少しずつ広がり、毎月 2,3 件ずつ事業者、イベント主催者に購入いただきました。また現在も新たな申し込みを次々といただいています。

当制度では、認定 NPO 法人きょうとグリーンファンドの「おひさま基金」を利用して設置された京都市内の太陽光発電設備「おひさま発電所（市民が参加する形で、保育園等の屋根に設置された太陽光発電パネル）」から発電される電力の環境にやさしいという付加価値を、証書の形にして販売しています。現在、対象となっているおひさま発電所は、下表のとおりです。今後、順次手続きを行い、対象となるおひさま発電所を増やしていく予定です。

京グリーン電力証書は 1,000 kWh 相当量 10,000 円から購入できるので、中小事業者の方にもご利用いただきやすくなっています。今年度、お求めいただけるのは、あと約 17,000kWh 相当量です。ぜひご活用ください。

詳しくは Web ページをご覧ください。http://ma21f.web.infoseek.co.jp/index.html



【写真】社会福祉法人鏡陵福祉会「陵ヶ岡保育園」のおひさま発電所

【表】2008年度 京グリーン電力証書販売状況(2008年9月16日現在)

発電所 名称(所在地)	所有者	認証電力量 (kWh)	販売先	販売電力量 (kWh)
おおみや おひさま発電所 (京都市北区 大宮中ノ社町37)	認定NPO法人 きょうとグリーンファンド	7,593	有限会社村田堂	1,000
			公栄運輸株式会社	1,500
			株式会社ワイズ	1,000
			株式会社ウエダ本社	1,000
			科研製薬株式会社	1,300
かがやき おひさま発電所 (京都市伏見区 小栗栖北後藤町1)	認定NPO法人 きょうとグリーンファンド	9,728	有限会社糺書房	1,000
			Live! Do you KYOTO?実行委員会(ダンディ ータイムコンサート Live! Do You KYOTO?)	1,000
			サンケイデザイン株式会社	1,500
			京都市(「DO YOU KYOTO?」プロジェクト)	1,000
			エイテック株式会社	1,000
			株式会社エコロ21	3,000
			吉村建築工業株式会社	1,000
りょうがおか ぽかぽか発電 (京都市山科区 御陵荒巻町50-1)	社会福祉法人 鏡陵福祉会	5,582	株式会社FM京都 (Kyoto Radio Day08 ecoes)	2,500

事務局動静

事務局スタッフの動きを報告します。(8月16日～9月15日)

8月 17日(日)嵐電妖怪電車取材
18日(月)山科区役所と打合せ
19日(火)京都市産業観光局と打合せ
エコまつりWG運営会議
20日(水)京都市地球温暖化対策評価検討委員会
22日(金)京都GPN 5周年記念事業実行委員会
25日(月)自然エネルギーWG運営会議
27日(水)KESC森づくりチーム活動
環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議
地球温暖化対策プラン検討会議

29日(金)京都GPN幹事会
9月 1日(月)省エネ相談所プロジェクト会議
京都市都市計画局と打ち合わせ
5日(金)京都市産業観光局と打合せ
6日(土)省エネアドバイザー養成打合せ
8日(月)京グリーン電力打合せ
10日(水)KESCおひさまチーム活動
11日(木)京グリーン電力打合せ
12日(金)エコツーリズムWG運営会議
13日(土)京都メディアフェスティバル分科会



★連載★ 京の交通交流ひろば出張所 第6回 京都のタクシーの現在（いま）

事務局コーディネーターの長谷川吉典です。連載「京の交通交流ひろば出張所」第6回をお届けします。「京の交通交流ひろば」は、“環境にやさしい交通体系の創出”を目指して活動

している交通WGのウェブサイト※で、環境を主な視点にしながら、京都の交通に関する様々な情報を紹介しています。本連載では、その中から、広くフォーラム会員の皆様に興味深く見ていただけるようなトピックを毎月紹介していきたいと思います。 ※<http://traffic.ifdef.jp/>

●変わりつつある京都市内のタクシー

京都市内には個人・法人あわせて約9,000台のタクシーが走っています。京都のタクシーというと、社会の景気減速後の法人各社のシェア維持のための増車競争の悪い影響があらわれて、個々のタクシーの獲得する乗客が減少し、道路のタクシーベイ（所定の待機場所）からはみ出して長時間客待ちしたり、本来禁止されている交差点で客を乗降させるなどして、交通の流れを妨げる迷惑な姿が目につくようになりました。



【写真】歩行者の横断を妨げるタクシー（京都駅前）

タクシーは、ガソリンと比較して走行距離あたりのCO₂の排出が若干少ないLPガスを燃料とし、また、マイカー保有と

比べると利用形態の違いから自動車利用を必要最小限の合理的な量にとどめる効果があり、地球温暖化対策の面で本来望ましい交通手段といえるものです。しかし近年、京都市内のタクシーの交通マナーが良くないということで、残念ながらタクシーは社会の嫌われ者になりかけていました。それは良くないということで、法人タクシーを中心とした京都のタクシー業界は、改善の動きを起こしています。今回は、その具体的な動きをいくつかご紹介します。

●ひとつになった法人タクシーの団体

京都市内の法人タクシーの業界団体は、1990年代以降つい最近まで4つの団体が存在し、これがタクシー業界としての統一行動を取りにくくしていました。

しかし、最近の燃料費の高騰が各社の経営を圧迫し、また、各団体の事業が重複する効率の悪さやタクシーの供給過剰や違法駐車が共通の課題になる中、運転手のマナー向上やタクシーの需要喚起などに業界を挙げて取り組み、サービス向上と経営改善を図りたいという機運が高ま

り、2008年8月29日、京都乗用自動車協会（京乗協）に組織が一括化されました。

●タクシーのマナー向上の取組

遠くない将来のトランジットモール（歩行者と公共交通優先の道路）化が計画されている四条通では、タクシーの行儀の悪さが指摘されてきました。このままでは、トランジットモール化とともにタクシー排除が決定されかねないという状況のもと、タクシーが自分たちでルールとマナーを守ることができると示すために、毎週金曜日の午後、各社の管理職が合同でタクシー乗務員への現場指導を行っています。

●介護タクシー

「歩くまち・京都」のスローガンのもと、徒歩とバス・電車での移動が推奨される京都市の都市部ですが、外出時にドア・ツー・ドアの移動手段を必要とする方もいます。複数のタクシー会社が、その需要に応えるべく、乗務員が介護福祉の資格を持つタクシーサービスを提供しています。

少子高齢化が大幅に進展するであろう将来の京都市で、地球温暖化対策の観点からマイカーを保有しないまちを目指すとき、ドア・ツー・ドアの移動手段として、この種の高度な輸送サービスをタクシーが提供できることは、たいへん重要になると筆者は考えます。



【写真】四条通におけるタクシーのマナー向上の取組



【写真】介護資格を持つ乗務員が運転するタクシーの一例（明星自動車の「スターケアタクシー」）

事務局短信 KESC「水源の森づくりチーム」活動でスギ林の間伐作業を行いました。この小さな活動が全国に広がって行く事で、日本の森林整備や野生動物保護活動が活発になることを期待しています。（西本雅則）／会員が参加できる場づくりを模索中です。「こんなことやってみたい!」という希望があればぜひ事務局まで教えてください。（竹村光世）／昨年度から始まった京グリーン電力証書が好評です。イベントやWebページでマークを見る機会も増え、嬉しい限りです。皆様の職場などでも、ぜひご活用ください。（小山直美）／今月号から編集・レイアウトをNPO法人木野環境にお願いしています。紙面のリニューアルも進めていきます。引き続きお読みいただければ幸いです。（長谷川吉典）